

# 2025年度 上期 各取組報告

2025-08-05

情報処理推進機構（IPA）  
デジタル基盤センター

- ◆ 議事次第・出席者確認(5分)
- ◆ 取組の総括 (5分)
- ◆ 各取組報告 (全60分)
  - デジタルエコシステム官民協議会設立 (5分)
  - データマネジメント読本・実務者向けガイド (5分)
  - データマチュリティアセスメント (5分)
  - データ品質管理ツール (5分)
  - データ利活用・データスペースガイドブック (AI利活用版) (5分)
  - GIF (5分)
  - データ辞書 (5分)
  - 普及展開状況 (5分)
  - 委員からのご意見
- ◆ データ戦略に関する最新動向(40分)
  - 概況報告
  - 委員からのご意見
- ◆ クロージング(5分)

# 取組の総括

## デジタル基盤センターにおけるデータスペース事業

デジタル基盤センター デジタル基盤の3要素を推進

**エンジニアリング**、トランスフォーメーション、イノベーションの推進

未来のデジタル社会に必須の

データスペースとそれを支えるデジタル基盤の作成

## データ環境推進委員会の目的

日本のデータ標準の在り方について、中長期的な視野に立ち、グローバルな視点からインターオペラビリティを確保する仕組みを確立する。



## データスペース事業の2025年度の目的

- データスペース、データガバナンスを中心として、実践のための**国内外のコンポーネントの整備・体系化**を行う。  
主ターゲット：経営者/CDO、事業/IT部門長
- **実務に近いGIFデータモデル**などを提供、利用しやすくする。  
主ターゲット：データ設計やデータ活用に携わる実務者

2025-03のデータ環境推進委員会「FY25狙いと目標から」

## 2025年度データスペース事業の主要取組

- **デジタルエコシステム官民協議会（JDEP）設立**  
事務局として協議会の運営をサポートする。
- **データマネジメント読本・実務者向けガイド**  
経営者や実務者が必要とするデータマネジメント・利活用に関するナレッジを体系化して公開する。
- **データマチュリティアセスメント**  
企業がデータの重要性を認識し、段階的にデータマチュリティを向上させるためのナレッジやツールを体系化して公開する。
- **データ品質管理ツール**  
データ品質の評価・改善のためのガイドブックを改定し、評価ツールを公表する。
- **データ利活用・データスペースガイドブック**  
データやデータスペースの利活用における主たるAI利活用シーンを整理しガイドブックを改訂する。
- **GIF**  
データ流通のデータ相互運用性を向上させるため、共通モデルを整備・拡充し公開する。
- **データ辞書**  
データ品質を向上させ、データ利活用の費用対効果を高めるため、データ辞書を体系的に定義し、機械可読性を高めて公開する。

# 2025年度データスペース事業の主要取組

#	取組項目	取組内容	2025年度目標
①	デジタルエコシステム官民協議会設立	官民の連携組織として今年度設立されたデジタルエコシステム官民協議会において、事務局・幹事組織の一員として円滑に進むよう運営に携わる。	JDEPの事務局として運営のサポートの実施 官民協働フォーラムの実施
②	データマネジメント読本・実務者向けガイド	データマネジメント・利活用人材を育成するための情報発信として、経営者や実務者が必要とするナレッジを体系化して公開する。	経営者向けデータマネジメント読本の公開 実務者向けガイドブックの公開
③	データマチュリティアセスメント	企業や組織がデータの重要性を理解し、データ利活用やDXを推進するよう、データ利活用能力評価指標（データマチュリティ指標）の体系的なナレッジ提供を行う。	データマチュリティアセスメント解説書の改善 データマチュリティアセスメントツールの整備準備
④	データ品質管理ツール	データ品質WGを立ち上げ、企業や行政が自らの保有・提供データの品質を評価・改善するためのガイドを改訂し、評価ツールを開発する。	ビジョンペーパー、品質ガイド改訂版の提供 品質評価ツールの公開と国際協調
⑤	データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版）	データやデータスペースの利活用における主たるAI活用シーンを整理し、参考となる考え方や取り組み方を含めてガイドブックを改訂する。	データ利活用・データスペースガイドブックのAI利活用版の公開
⑥	GIF	データ流通におけるデータ相互運用性を向上するGIFの利用展開に向けた、GIFの整備・拡充と機械判読できるデータモデルの整備を行う。	実装データモデル（教育・防災）の整備 機械読み込み可能な手法・公開方法の確立
⑦	データ辞書	機械判読可能な情報を整理しデータ・AIの利活用を推進するため、人が理解する用語と機械が理解する記述の統合されたデータ辞書の整備を行う。	ipadicの整備と関係者調整 オントロジー記述の整備
⑧	普及展開状況	データスペースを含むデータ利活用を経営に生かすことの認知を広げる一貫として、情報発信媒体や講演を通じた普及展開を行う。	講演等による取組周知 取組周知の一覧化による普及の可視化

## 各取組報告



# デジタルエコシステム官民協議会設立

概要	背景	データは新たな価値創造の源泉で極めて重要な要素である。データ連携・利活用の重要性は広く認識されつつあるが、具体的なユースケースの創出は十分ではない。
	内容	データ連携・利活用を促進するエコシステム形成に向けて、官民連携でユースケースを創出するため、関連する取組の支援、データ連携環境の整備、国内外の動向調査・分析及び情報発信等を行う。IPAは幹事組織の一員として、これらが円滑に進むよう運営に携わる。
目標・狙う効果		「デジタル経済社会の実現に向けて、産業データスペースや係るトラスト基盤等からなるデジタルエコシステムの整備を官民で促進する」という協議会の目的のもと、事務局として協議会の運営のサポートを行う。
上期取組		<ul style="list-style-type: none"><li>運営のため、幹事会、企画運営委員会及び事務局を設置</li><li>デジタルエコシステム官民協議会（JDEP）のウェブサイトを公開</li><li>準備委員会で課題感の整理に貢献</li></ul>
今後の取組予定		<ul style="list-style-type: none"><li>JDEPでは官民協働フォーラムを開催予定</li></ul>

## デジタルエコシステム官民協議会について

### 1. 名称

名称は、デジタルエコシステム官民協議会（以下「本協議会」という。）とする。

### 2. 目的

データ連携・利活用 of 取組を生み出すデジタルエコシステムの形成を官民で促進することを目的として活動を行う。

### 3. 構成

運営のため、幹事会、企画運営委員会及び事務局を設置する。



## デジタルエコシステム官民協議会について

### 4. 会員

本協議会の目的に賛同する事業者団体（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）第2条第2項に規定する事業者団体のことをいう。）等その他これに準ずる組織、関係府省庁等（以下総称して「会員」という。）は、本協議会への入会を希望する場合、事務局の指定する方法で申し込むものとし、幹事会がこれを承認した場合、会員となるものとする。

### 5. 幹事会

幹事会は、議長及び議長が指名した幹事をもって構成する。

### 6. 企画運営委員会

企画運営委員会は、委員長及び委員長が指名した委員をもって構成する。

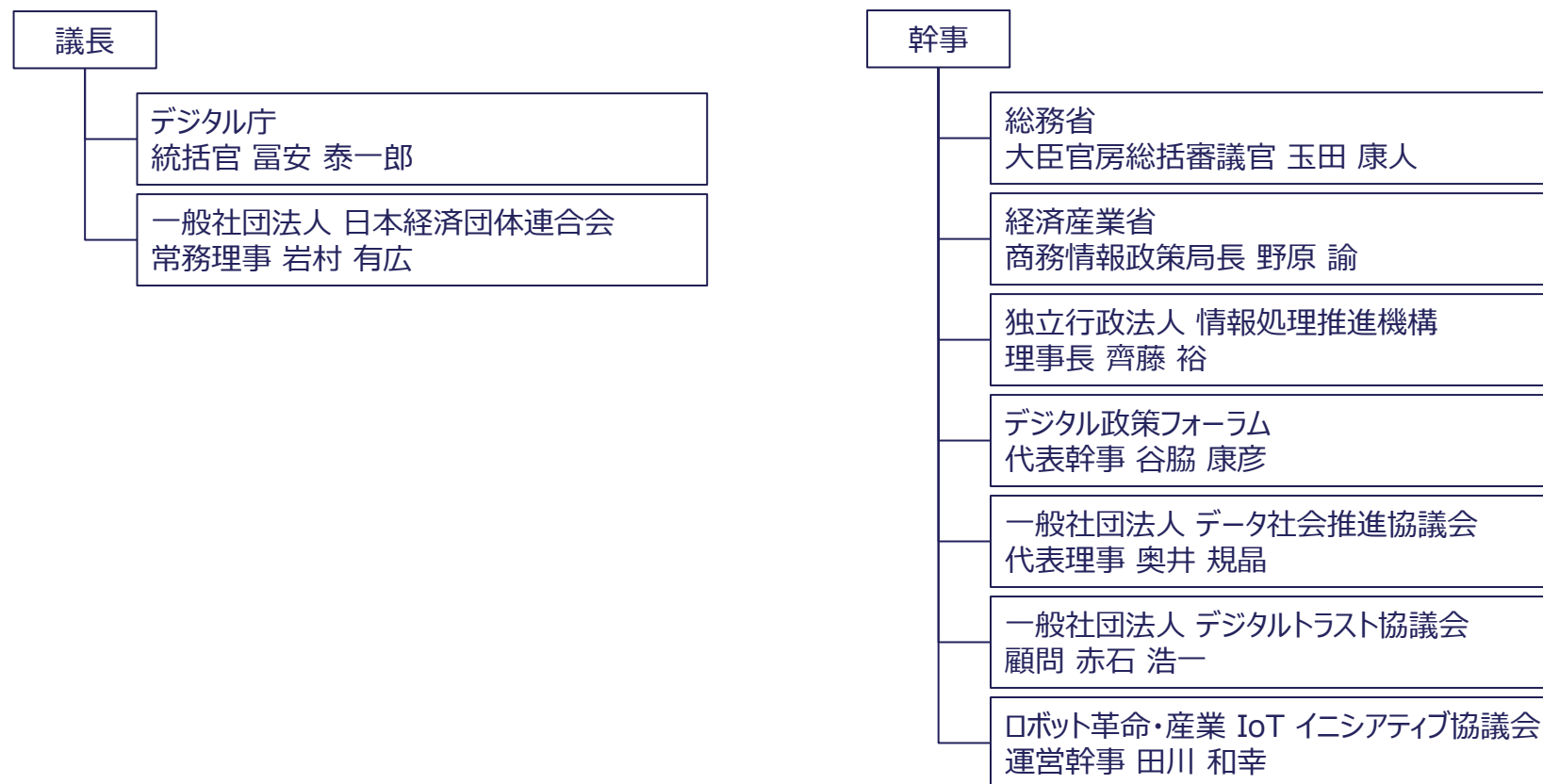
### 7. 事務局

事務局は、会員の協力を得て、デジタル庁、日本経済団体連合会及び情報処理推進機構が共同で行う。

# 参考：デジタルエコシステム官民協議会について

## デジタルエコシステム官民協議会 幹事会 構成員（2025年6月設立時点の情報※）

※2025年7月以降構成員や役職等変更の可能性があるため、最新情報は公式ウェブサイトをご確認ください。



# データマネジメント読本・実務者向けガイド

概要	背景	データは新たな価値創造の源泉であり、極めて重要な要素である。しかし、データそのものの重要性に対する理解は依然として低い状況である。また、データを取り巻く環境が変化しており、データマネジメントの対象も広がっているにもかかわらず、その理解も乏しく、データマネジメント人材も不足している。
	内容	データに対する理解を深め、データのライフサイクルを考慮し、進化するデータマネジメントに対応できるデータマネジメント人材の育成のための情報発信を行う。
目標・狙う効果		企業等が、データマネジメント・利活用人材を育成し、個人のデータリテラシーと組織のデータマチュリティを高められるようにするため、経営者や実務者が必要とするナレッジを体系化して公開する。経営者向け読本はFY24に計画したものは公開を完了させる。データマネジメントに関しては実務者向けのナレッジを体系化し公開を完了させる。
上期取組		<ul style="list-style-type: none"><li>データマネジメント読本を公開</li><li>データリテラシーガイドブックを公開</li></ul>
今後の取組予定		<ul style="list-style-type: none"><li>インターオペラビリティに関する読本の公開</li><li>東大・DSA・JDMC等との連携強化</li></ul>

# 参考：Data Spaces Academyの公開済み読本

## Data Spaces Academy 経営者・CDOの方向け読本（2025年6月時点）

CxO向けにデータを戦略的に利活用するための基礎知識を紹介している。  
掲載読本は一例である。詳しくは [Data Spaces Academy](#) を参照。

### ■データガバナンス読本

データガバナンスとは、データを戦略的に管理・活用するための仕組みやルール、体制のことを指す。データの品質やセキュリティを保ちつつ、誰がどのように使えるかを明確にすることで、ビジネス価値を最大化し、リスクを最小化する取り組みである。<sup>\*1</sup>



### ■データマチュリティ読本

データマチュリティとは、データを使いこなし、データの価値の最大化とリスクの最小化を持続的に行い、組織が最大のパフォーマンスを出しているのかどうかを、明らかにし、改善するための考え方である。<sup>\*2</sup>

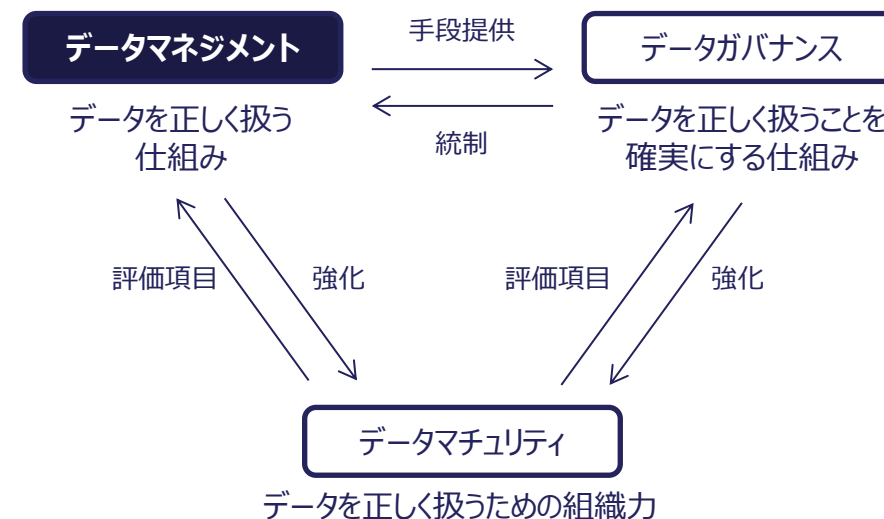


### ■データマネジメント読本（2025年6月11日公開）

データマネジメントとは、組織が保有するあらゆるデータを効率的に、収集・整理・保存・共有・分析・活用するための体系的なプロセス管理を指す。これにより、ビジネスの意思決定を支援し、競争優位性を確保することが可能になる。<sup>\*3</sup>



### データを扱う仕組みの関係性



\*1 [信頼できるパートナーになるためのデータガバナンス読本](#)

\*2 [データ経営の総合力を高めるデータマチュリティ読本](#)

\*3 [データを戦略的に使いこなすためのデータマネジメント読本](#)

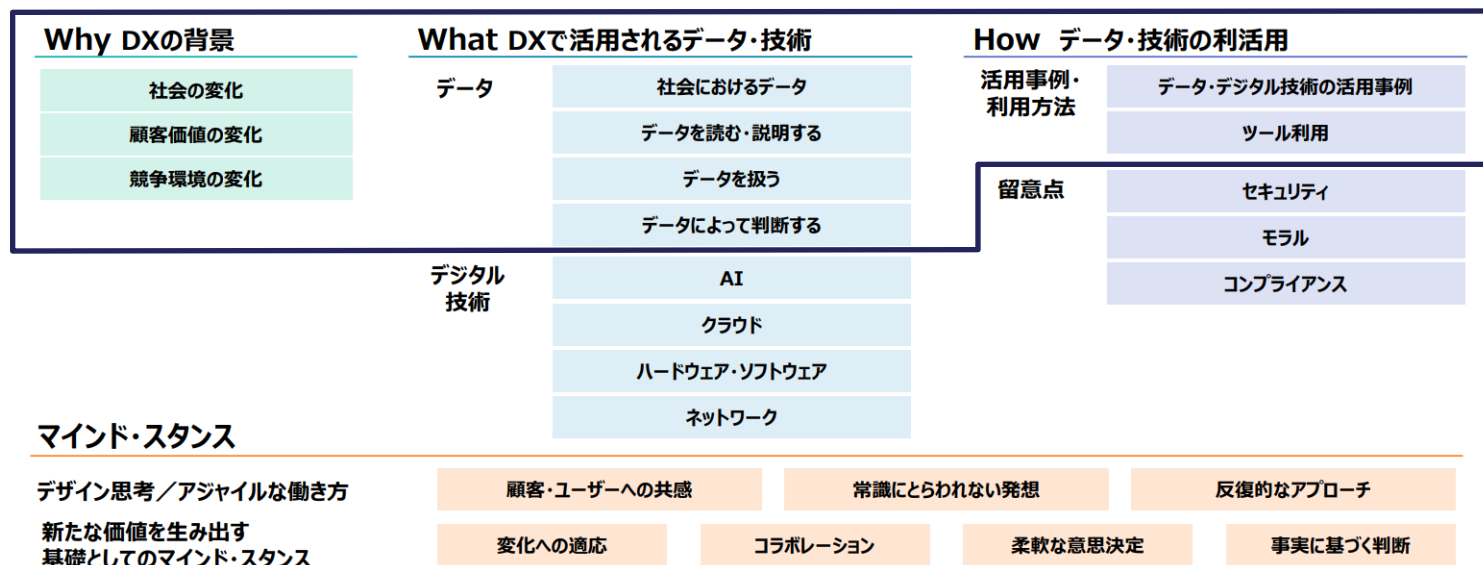
インターオペラビリティに関する読本も公開予定

## Data Spaces Academy 実務に携わる方

実務を行う方向けに、組織の戦略を実現するための実践的な方法を紹介している。  
掲載内容は一例である。詳しくは [Data Spaces Academy](#) を参照。

### ■データリテラシーガイドブック

データリテラシーガイドブックは、データ利活用に必要なデータリテラシーをDXリテラシー標準の枠組みでまとめた資料である。  
GIFアカデミーで公開されていた「DXで活用されるデータ・技術 - データ」の項目をアップデート、「DXの背景」と「データ・技術の利活用 - 活用事例・利用方法」の項目を追加予定である。対象範囲は下記を想定している。





# データマチュリティアセスメント

概要	背景	各国はデジタル政府の実現に向けて取り組みを進め、企業ではデータ利活用の取り組みが進んでいる。一方で、日本国内において、組織的のデータ利活用能力の範囲や深度を客観的に評価する指標が十分に普及しているとは言えず、またその必要性和重要性が十分に理解されていない。
	内容	日本版の組織のデータ利活用能力評価指標（データマチュリティ指標）の提供により、戦略立案の基盤となる現状分析と、定期的な評価・進捗管理を実現。これにより、変革の継続的な推進と、組織能力・データ利活用力の同時向上を図る。
目標・狙う効果		企業や組織がデータマチュリティの必要性和重要性を認識し、継続的な評価、分析、改善を行うことにより、段階的にデータマチュリティを向上させることができる。この取り組みにより、データの利活用が進展し、新サービスや変革を通じてDXの推進を加速させる。
上期取組		既に公開しているデータマチュリティアセスメント解説書に対し、匿名レビューを通じて実務者視点の改善意見を収集（上半期末までに実施予定）
今後の取組予定		各国政府や企業のデータマチュリティアセスメントを参考に、DX推進指標とも併用可能な日本版データマチュリティアセスメント作成に向けて、ガイドブック、アセスメントツール、自己診断ツールのプロトタイプ版の開発に着手予定。

## Data Spaces Academy 実務に携わる方

実務を行う方向けに、より実践的な手段を紹介している。

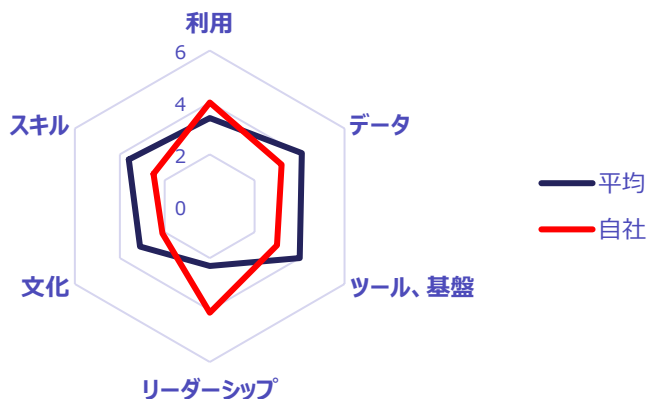
詳しくは [Data Spaces Academy](#) を参照。

### ■データマチュリティアセスメント解説書

組織のデータ利活用能力を伸ばす考え方に基づき評価するためのアセスメントフレームワークやツールについて調査したものである。

英国（イギリス）政府、豪州（オーストラリア）政府が公開しているアセスメントフレームワークやツールを題材に日本語に仮訳しながら、比較・考察した。これらは政府関連組織に適用することを目的として開発したが、企業も参照可能。

### データマチュリティアセスメントのイメージ



自組織の強みと弱みを明確化することで、それに応じた適切な対策ができるようにする

例)


- ・リーダーシップと利用を強みとして活かす
- ・スキルが弱いので改善する





# 参考：データマチュリティアセスメントツール日本版のプロトタイプ（案）


## マチュリティアセスメントツールのプロトタイプ版の想定

### プロトタイプ版の開発に着手予定

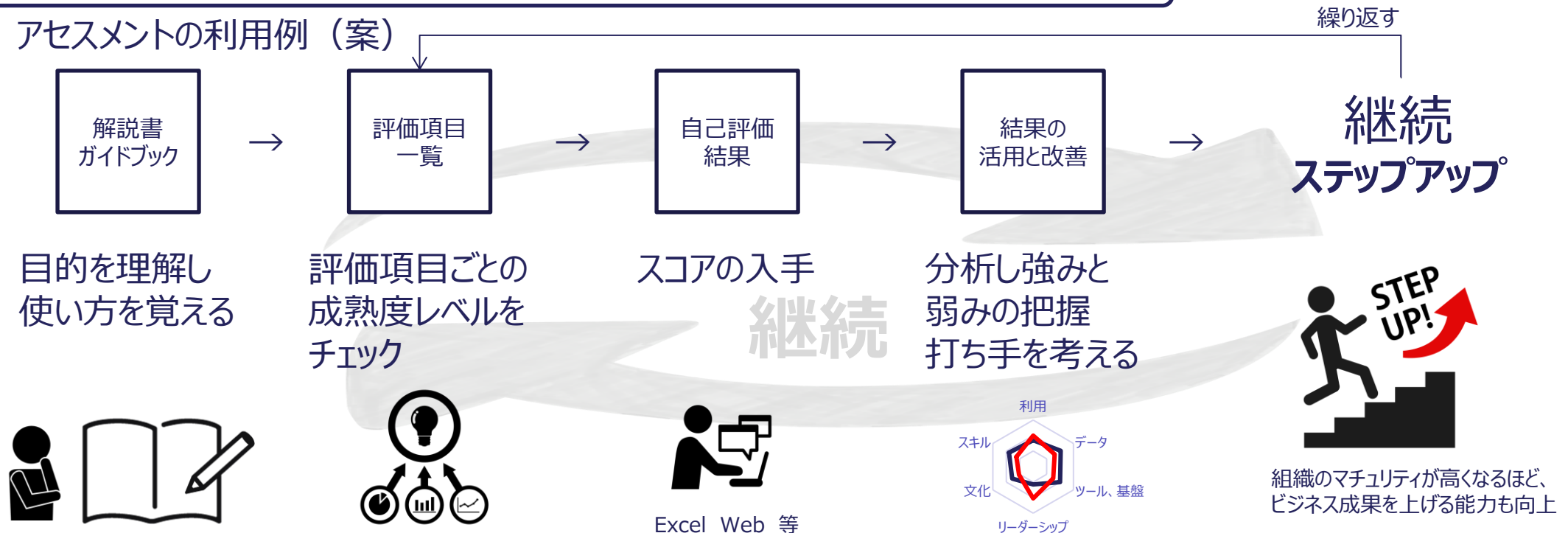
考え方や実施  
方法の解説書  
を提供予定 

日本向け評  
価項目を  
提供予定 

回答結果から自己  
評価表示ツールを  
提供予定 

改善のための  
参考ガイドを  
提供予定 

### アセスメントの利用例（案）



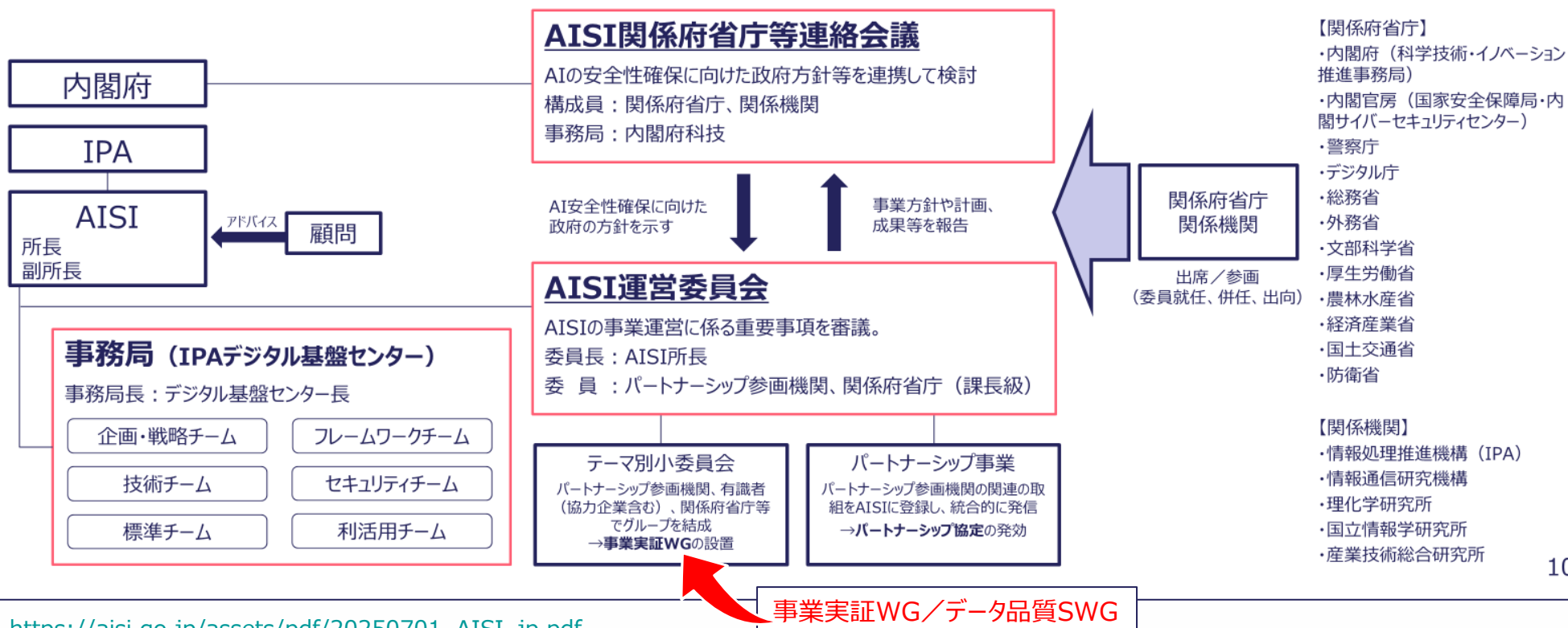
概要	背景	AIの性能や安全性の基盤となるデータ品質の管理手法の確立が急務である。データ品質管理は既存の標準類も存在するが、実務目線での使い方やAI時代の新たな観点の導入が必要である。こうした課題認識のもと、2025年3月に「データ品質マネジメントガイドブック 1.0」を公表した。
	内容	データスペースGがリーダーとして推進するAISI事業実証WG／データ品質SWGにおいて、産学官の専門家との議論を通して、実務的なガイド整備、評価ツールの開発・提供、適用検証を進める。
目標・狙う効果		行政や民間事業者が、自らの保有・提供データの品質を評価・改善できるようにするために、ガイドの改定（網羅版、簡易版）やガイドに即した評価ツールを公表する。
上期取組		<ul style="list-style-type: none"><li>ビジョンペーパーの公開（6/30）：WGの取り組みの方向性を整理</li><li>ワーキンググループの組成（8/1）：産学官の計11団体との参加調整を終え、第1回のWGを8/1に開催した。以降、月次で開催予定</li><li>品質管理ガイド改定版の提供（上期成果）：WG参加者のレビューを取り込んで公開</li></ul>
今後の取組予定		<ul style="list-style-type: none"><li>ガイドに即した品質評価ツール（チェックリスト等の簡易なものを想定）の公開</li><li>3分野での適用検証（ヘルスケア、ロボティクス、行政を想定）</li><li>WGの報告会や、連携する業界団体を通じた普及展開</li><li>日本発のガイドとして国際的な議論に反映</li></ul>

# 参考：AISI（AIセーフティ・インスティテュート）の体制

## AISIの推進体制

**AISI** Japan  
AI Safety  
Institute

内閣府を事務局とする「**AISI関係府省庁等連絡会議**」で政府方針等を検討  
AISI所長を委員長とする「**AISI運営委員会**」で事業方針を検討



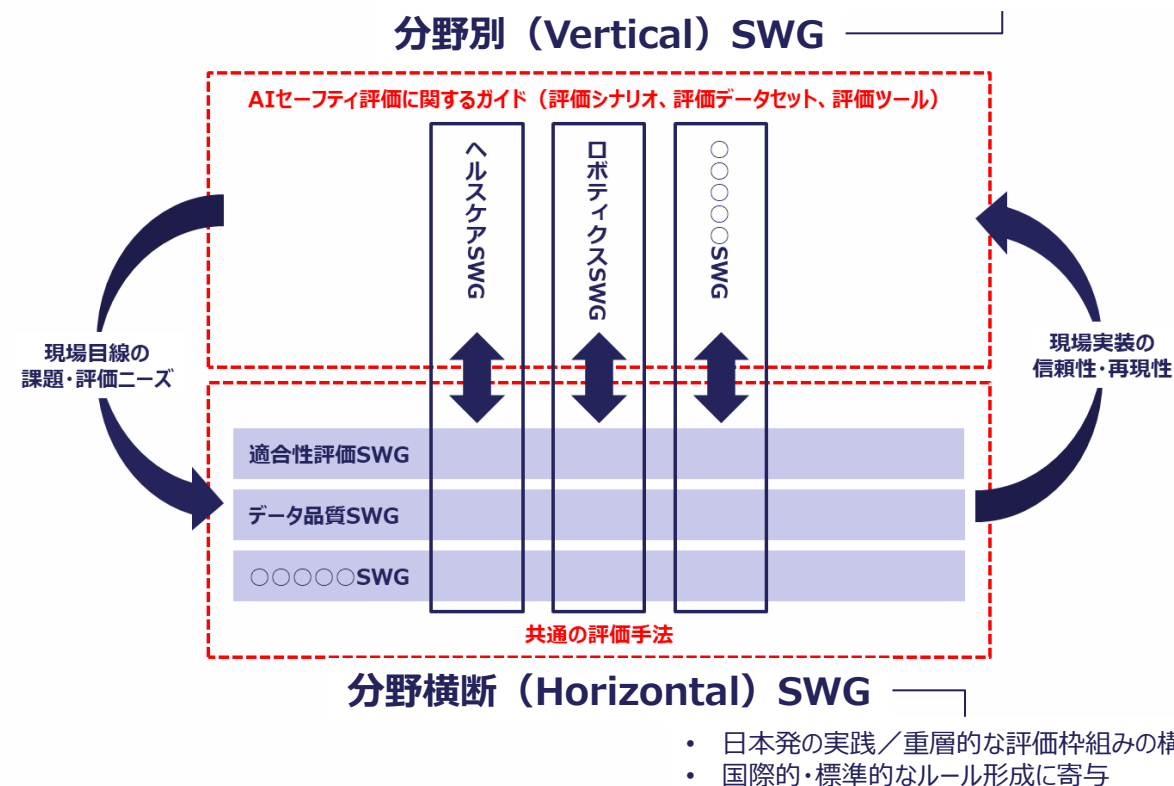
# 参考：ワーキンググループの立ち上げ

## 事業実証WGの位置づけ

- ◆ 事業実証WGのゴールは、**AIの社会実装におけるAIセーフティの確保を支える仕組みを構築し、利用者のリスク理解を前提としたAIセーフティ評価の枠組みを整備すること。**
- ◆ **産業界・行政・専門家といった多様なステークホルダーが参画し、参画機関間の連携を図る場**を提供する。
- ◆ 業界ごとのAIセーフティ評価に関する見解をまとめ、具体的な実証をする等のWG活動を推進し、**分野ごとに特化されたガイドやデータを作り、その普及を図る。**

## 事業実証WGの俯瞰図

- ・ 国際的関心が高く日本が強みを持つ分野
- ・ AI利活用進展とAIセーフティ確保が重要な領域



# 参考：データ品質管理ツールにより解決すべき課題

## 1. 標準と実務のギャップ

実務者がリファレンスすべきデータ品質に関する標準はあるが、それらを活かすための枠組みや支援が十分とは言えない。具体的には、標準の数が多く、適切なものを見つけることが難しいうえ、見つけられたとしてもその記載内容と実務の間にはギャップがある

## 2. AI時代のデータ品質マネジメント

標準策定には国際的な議論・合意形成が必要であり、時間を要する。このため、生成AIへの対応のような現場で喫緊に求められる課題には、構造的に追いつくことが難しい

## 3. データ品質への低関心

AIやアナリティクスなどの「活用側」に比べ、データ品質は非機能的であるため関心が相対的に低く、予算や体制の確保が後回しにされがちである

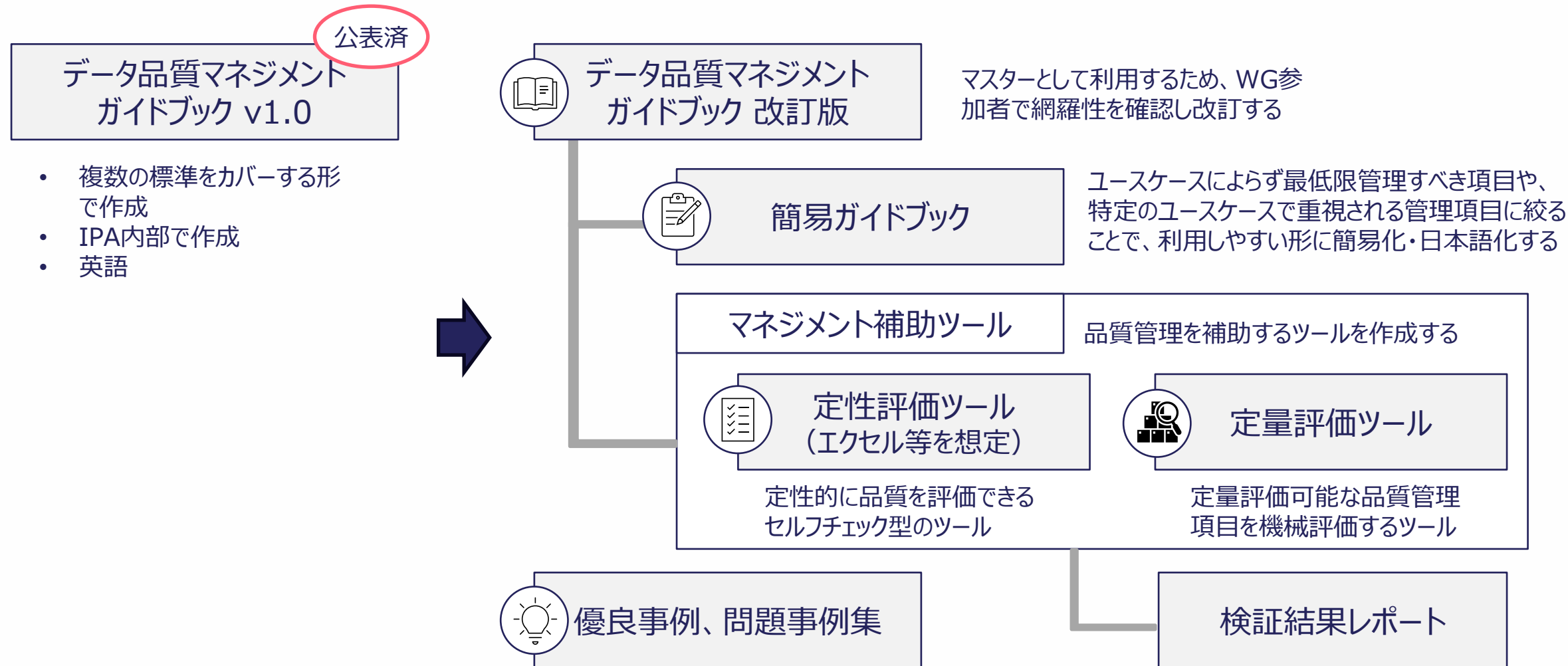


# 参考：データ品質管理ツール開発の取り組み方針

既存の標準類を補完する形で、**実務志向**でガイドや評価ツールの整備に取り組む。基幹系システムにおける定型データや、学習データやRAG/Agentが参照する非構造化データのような生成AI時代のデータ（下図参照）といった異なる文脈にあるデータ品質を統合的に捉えたフレームワークを提示し、これを実務へ橋渡ししていくことを目指す。



# 参考：データ品質管理ツールの成果物イメージ

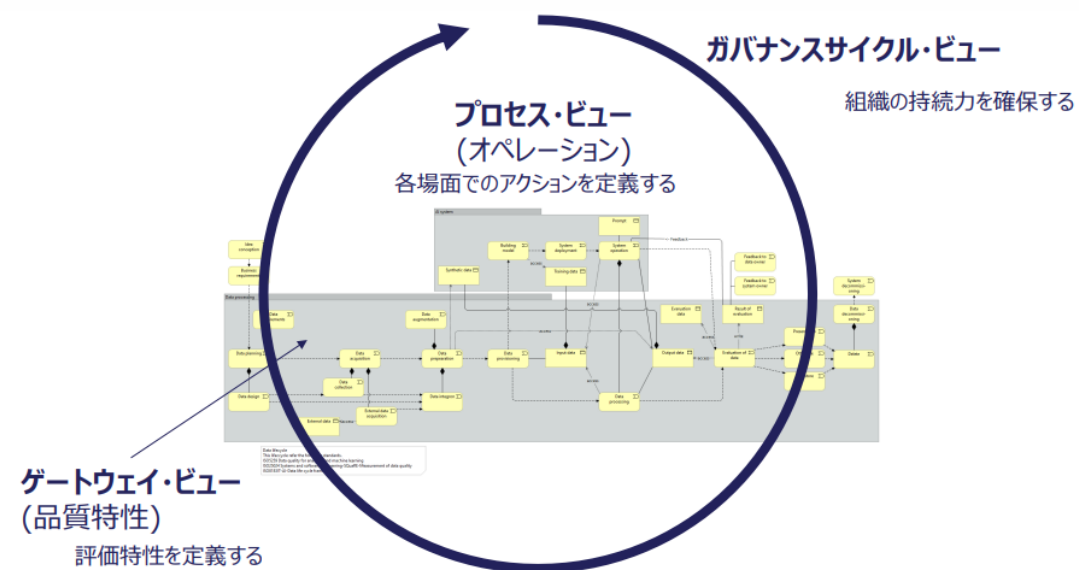


※今年度どこまで実施できるか、何にフォーカスするかはWGで議論の上で決定する



## データとAIの価値を最大化するために必要な データ品質を持続的に確保するため、何をすべきか整理

- ◆ データ品質は、AIの卓越性の基礎であり、信頼できるAIの実現に寄与する。AI社会を適切に実現し、データ駆動型社会へと導くため、本ガイドに整理。
- ◆ 本ガイドは、英語版が正式版（全146ページ）であり、2025年3月に日本語訳サマリ（全11ページ）が公開。



# データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版）



概要	背景	データの活用先としてAIは筆頭の一つ（国連のグローバル・デジタル・コンパクトでの注目や、データマネジメントの観点等）。AI利活用を出発点とした情報は世の中に多く現れつつあるが、データ利活用を軸としつつデータスペースやAI利活用まで視野に入れたガイドブックは不十分である。
	内容	現状のデータ利活用・データスペースガイドブックのタスク等の要所において、データを軸としたAI利活用の際の考慮点や変更点を例示し、参考となる考え方や取り組み方を提示するよう改訂・追記する。（例：AIで用いるデータ特性に応じた対応、AIモデルへのデータの渡し方等）
目標・狙う効果		当該ガイドブックの想定読者がデータ・データスペース利活用の際に、AIも合わせて利活用するケース特有の考慮点や変更点を理解・想像できるようにする。データの相互運用性を踏まえながら上流から下流までの一連のタスクを理解・想像できるようにする。
今後の取組予定		データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版）の作成※、公開。 ※データ利活用・データスペースガイドブックの新規資料として公開するか、既存資料に追加するかは現時点で未決定。

# 参考：データ利活用・データスペースガイドブック第2.0版 (2025年1月公開) の構成

本ドキュメントは、想定読者を基にした「第1部 データ利用者編」と「第2部 データ提供者編」で構成されており、データスペースを活用するための一般的なプロセスを設定し、フェーズごとに解説をしています。



**データ利活用・データスペースにおける代表的なAI利活用の観点は、大きく2種類に分けられます。**

## ■ for AI（データ利活用・データスペース起点でAI利活用をより効果的に）

最終的にAI等を含めてデータ利活用する際の効果を高めるために以下の取り組みを行う。

- ◆ 高品質な学習データの提供やメタデータの整備などを通じたデータ環境の改善
- ◆ データスペースを通じた扱えるデータの拡充

## ■ by AI（AIによるデータ利活用・データスペースの支援・機械化・自動化）

AI技術を活用して、データクレンジングやメタデータの自動生成など、データ利活用やデータスペースの実現・運用を効率化することを狙う。

# 参考：データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版） の観点の例（データ利用者側）

フェーズ	for AI (データ利活用・データスペース起点でAI利活用をより効果的に)	by AI (AIによるデータ利活用・データスペースの支援・機械化・自動化)
1. 経営戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI導入の目的と期待成果を定義し、必要なデータ要件を抽出</li> <li>データ調達コストやリスクを経営判断に反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIによる業界内ユースケースの分析支援</li> <li>必要データのボトルネック分析をAIで実施</li> </ul>
2. IT戦略・企画策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI開発計画に必要な入出力データ要件の定義と優先度付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユースケースに基づいた最適なデータ構成パターンの提案</li> <li>過去の設計ドキュメントをもとにした自動要件抽出</li> </ul>
3. データ提供準備	(利用者側では省略)	(利用者側では省略)
4. データ検索	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIが解釈可能な形式・仕様を基に検索条件設計</li> <li>探索目的を明確化して検索精度を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIによる検索補助（自然言語による検索I/F提供）</li> <li>類似ユースケースからの自動推薦</li> </ul>
5. 契約	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI生成物における著作権・派生物の取り扱いを確認</li> <li>利用目的に応じた契約条件の交渉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約文書の自動要約・比較</li> <li>データ使用条件の自動マッピング</li> </ul>
6. データ利用アプリ開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル性能を高めるためのデータ選定・加工・追加</li> <li>性能評価における説明可能性の担保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ選定・前処理をAIが支援（AutoML・Feature Engineering）</li> <li>評価指標自動生成</li> </ul>
7. 運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用中のデータ変更に対応したモデル調整</li> <li>説明責任のためのデータトレーサビリティの確実な実行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIによるデータ／モデル変更履歴管理</li> <li>自動リトレーニングトリガー設定</li> </ul>
8. 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>データがAI性能やバイアスに与える影響を分析</li> <li>社会的妥当性の評価（公平性・説明性）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIによる評価レポート生成支援</li> <li>Explainable AIと連携した評価支援ツール活用</li> </ul>

※本内容は一般的な情報に基づく参考情報です。今年度の調査事業を通じて正式な例を改めて定義し、ガイドブックに反映する予定です。



# 参考：データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版） の観点の例（データ提供者側）

フェーズ	for AI (データ利活用・データスペース起点でAI利活用をより効果的に)	by AI (AIによるデータ利活用・データスペースの支援・機械化・自動化)
1. 経営戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>データのAI利活用ポテンシャル評価（例：業界別AI適用事例を踏まえて）</li> <li>自社データ資産の戦略的価値の再評価（AIとの親和性）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界動向やAIトレンドを自動分析し、自社に合致する活用モデルを提案</li> <li>社内データ資産の分類・可視化（AIで自動生成）</li> </ul>
2. IT戦略・企画策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI利活用を見据えたデータアーキテクチャ設計（共通語彙、API、メタデータ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存データ資産のAI適性を自動評価し、設計改善ポイントを抽出</li> <li>企画書作成のドラフト支援</li> </ul>
3. データ提供準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI品質特性（ISO 5259-2）に基づくデータ品質チェック</li> <li>機械学習に適した前処理（欠損処理、正規化、アノテーション）</li> <li>メタデータ・意味情報の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラベル付け、メタデータ生成の自動化</li> <li>バイアス検出・異常値処理のAI支援</li> <li>合成データ生成による補完</li> </ul>
4. データ検索	<ul style="list-style-type: none"> <li>検索されやすい語彙・メタデータ設計</li> <li>ユースケースに紐づくタグ付け・用途説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意味的検索支援（類義語、コンテキスト解釈）</li> <li>チャットボット型検索ナビゲーション</li> </ul>
5. 契約	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI利活用を前提としたライセンス・再利用条件の整備</li> <li>アルゴリズム学習への利用可否を明示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIによる契約文のチェック・リスク抽出</li> <li>条項の妥当性を自動評価</li> </ul>
6. データ利用アプリ開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの使われ方から品質改善にフィードバック</li> <li>AIモデル評価のための基準データ提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ログから再利用可能なデータパターンをAIが分析・提示</li> </ul>
7. 運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的なデータ品質モニタリング</li> <li>AIモデルの運用に影響する更新の通知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIによるドリフト検知、異常変化のアラート</li> <li>利用傾向分析と改善案提示</li> </ul>
8. 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIモデルの振る舞いを支えるデータの透明性確保</li> <li>第三者評価用データセットの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ品質・貢献度の可視化</li> </ul>

※本内容は一般的な情報に基づく参考情報です。今年度の調査事業を通じて正式な例を改めて定義し、ガイドブックに反映する予定です。

概要	背景	データモデルやルールを体系化し標準化して、政府システムをはじめ様々な分野での活用に広げていく段階。活用が見込まれる分野への展開に向けた活動を行うとともに、デジタル庁と歩調を合わせた、コアデータモデル・パーツや、実装データモデルの拡充が求められている。
	内容	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 教育・防災に関する実装データモデルの整備、GIFの拡充 ※デジタル庁連携</li><li>■ 各分野への普及活動、機械判読できるデータモデルの整備</li></ul>
目標・狙う効果		<ul style="list-style-type: none"><li>■ 共通的なデータモデルを利用することで、行政・他分野間でのデータ流通におけるデータ相互運用性を向上し、設計コストや時間の削減、連携の容易さ、申請者の利便性向上を実現する。</li></ul>
上期取組		<ul style="list-style-type: none"><li>■ デジタル庁が策定した教育データ利活用ロードマップに則り、文科省が定めた教育データ標準5.0に合わせた、教育の実装データモデル（主体・内容・活動情報）の整備 ※デジタル庁連携</li><li>■ クラス図などをデータモデル作成者が機械的に読み込む手法、公開形式の検討</li><li>■ スマートシティリファレンスアーキテクチャ・第4版の執筆協力</li></ul>
今後の取組予定		<ul style="list-style-type: none"><li>■ 防災の実装データモデルの整備 ※デジタル庁連携</li><li>■ GIFの拡充（政府情報システムに合わせたGIFの修正、説明追記など） ※デジタル庁連携</li><li>■ クラス図などを機械的に読み込むことが可能な手法、公開形式の確立</li><li>■ スマートシティ、防災、教育、観光分野の関係者とのGIF活用の検討と共同事業化に向けた準備</li></ul>



# 参考：GIF 概要

GIFは**政府相互運用性フレームワーク**の略称

- GIFは、デジタル社会のための**データの連携ルールや技術規格、ひな形**をまとめたもの。
- GIF適用にて、データ設計やサービス設計の共通化が進むことで、標準化された、品質の高いデータが利用・流通される。

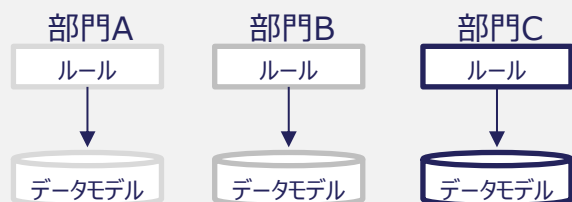
## GIF適用による**社会的意義**

ひな形やデータの技術規格による標準化により

- 設計コストや時間の削減
- 連携の容易さ、拡張性の向上
- 申請者の利便性向上

## GIFを導入しない世界【現在の課題】

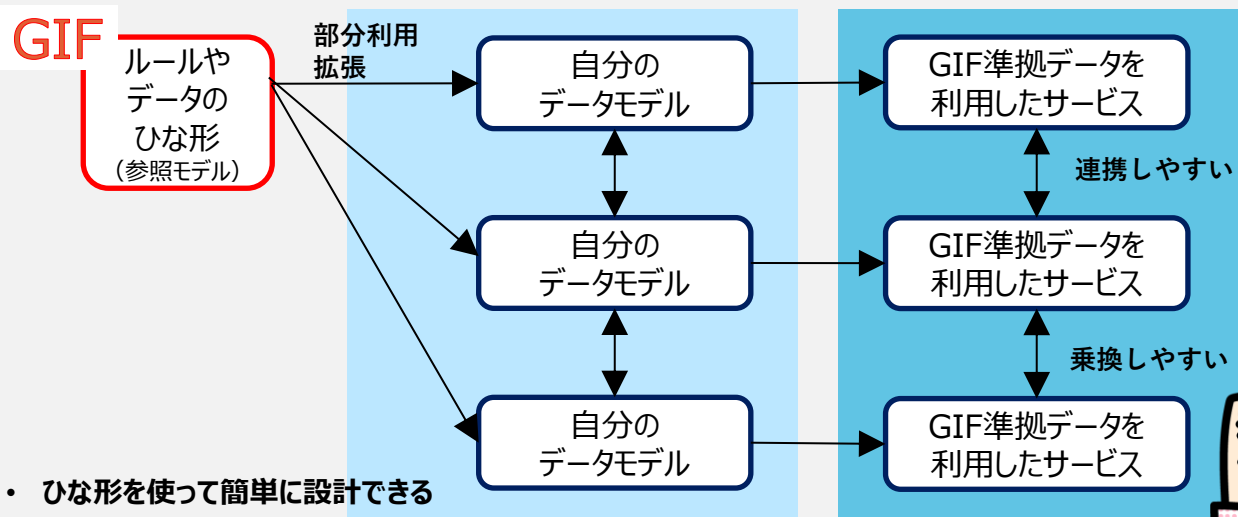
- 自由にデータセットを作成し、自分だけ使う。
- データの整備に方言が出てくる。
- 共通のデータ形式にならない。



## GIFを導入した世界【目指す姿】

共通化されたデータが、**サービスで導入され、流通され、組み合わせること** → **相互運用**  
高度なサービスの提供、データの共有化、広域展開ができる。 **そのためのGIF**

データ保有者、サービス提供者



- ・ ひな形を使って簡単に設計できる
- ・ 目的に合わせて柔軟に設計できる



# 参考：GIF データモデルのイメージ

## 実装データモデル

データ保有者がすぐサービス利用できるための標準体系。  
利用すればデータ保有者が考える必要性が無く、負担も少ない。

## コアデータモデル

社会で広く共通的に使われる物を、表すためのひな形。  
基本的な情報をデータで表す設計図。

## コアデータパーツ

多くのデータ作成に頻繁に必要な汎用パーツ。  
共通化するので、日付などの形式の揺れを解消。

## コア語彙

データの「言葉の意義、項目、構造」の定義。  
社会活動に必要な基礎用語を共通に扱う。

## 将来像（運用・技術の到達）

コア語彙、コアデータパーツ、コアデータモデルを用い、機械的に、自動的に実装データモデルが構築できる。そのデータモデルを共有し分野内・外で利用できる。



（イメージ）

データモデルの採用をすることで、国内外標準の認証が受けられる。  
AIの学習に用いられる基礎モデルとなる。

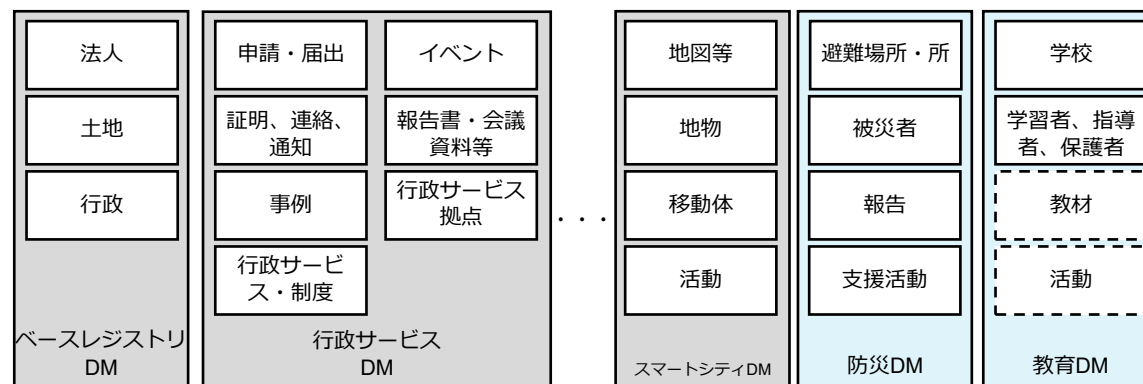
## データモデルを適用 相互運用できる標準的なデータを扱える

### 実装データモデル

小さなパーツである、  
①コア語彙  
②コアデータパーツ  
③コアデータモデル  
組み合わせ  
実装モデルに展開

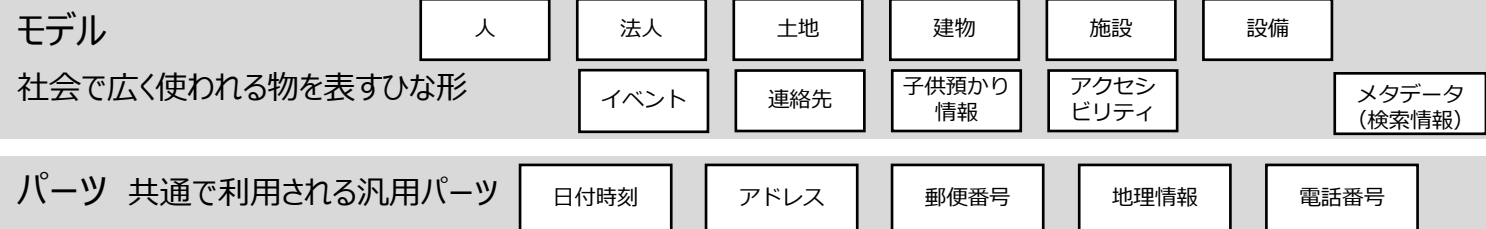
サービス単位に標準化  
されたデータを整備

### 実際にサービスで利用するパーツを集めた施工図



### コアデータ

### 基本的な情報をデータで表す設計図



### コア語彙 Vocabulary

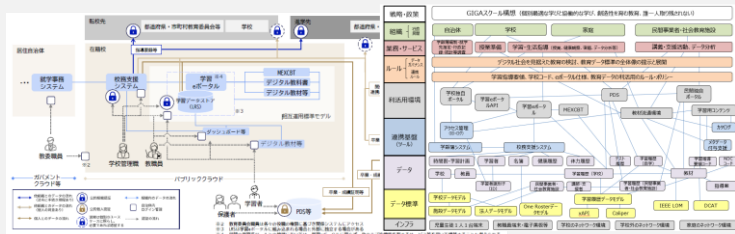
### データの「言葉の意義、項目、構造」の定義

データの世界でみんなが同じ言葉・同じ意味で話せるようにする

# 参考：GIF 拡充

## 教育データモデル 上期（デジタル庁連携）

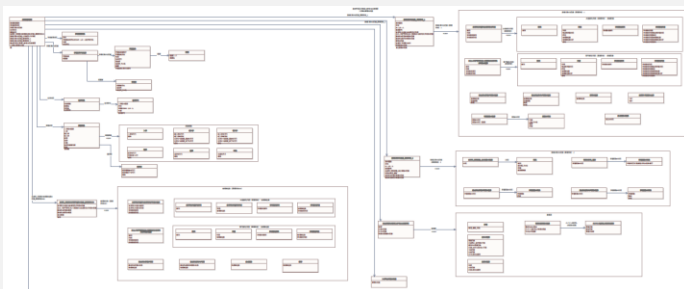
### 教育データ利活用ロードマップ アーキテクチャ



### 教育データ標準5.0

データ標準一覧表	データ名	標準番号	バージョン	5.0
データ標準一覧表	標準番号	データ名	標準番号	バージョン
11.1	基礎情報	基礎情報	11.1.1	11.1.1
11.2	学習活動	学習活動	11.2.1	11.2.1
11.3	評価	評価	11.3.1	11.3.1
11.4	関係機関	関係機関	11.4.1	11.4.1

### 実装データモデルを作成

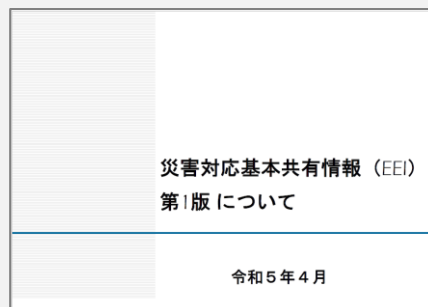


成果物はデジタル庁より公開予定

## 下期（デジタル庁連携）

### ■ 防災実装データモデルの整備

教育実装データモデルの手法を用いた整備  
EEI（災害対応基本情報）に合わせた整備  
米国EEIとの整合



### ■ GIFの拡充

政府情報システムに合わせたコアデータモデル、  
パーツの改善、使い方説明の補記などGIFド  
キュメントの拡充

### ■ 海外データ標準戦略などの調査

成果物はデジタル庁より公開予定

## IPA事業

### ■ 機械判読を前提とした整備検討

- AsIs：WordとPDFで提供 ※デジタル庁  
→機械がそのまま読み込める形式とはなっており、利用者側で形式の変換等が必要な状況
- ToBe：AIによる機械判読を前提とした整備  
【機械判読可能なドキュメント提供の一例】
  - ・標準な読み込み形式でのクラス図提供  
OSSなど想定したUMLモデルの提供
  - ・構造化DMからのXMI生成によるクラス図
    - EUでは機械判読前提のツール群が既に提供
    - 情報欠落が少なく表現が高いXMIで整備。XMIを中間表現とし、機械判読や人が使いやすい方式に変換を想定した整備。



検討中のWebpage版クラス図

### ■ 実装モデルのアーキテクチャの検討

# GIF GIF活用のための普及展開活動

## 内閣府

## スマートシティリファレンスアーキテクチャ

## Ver3, Ver4 執筆協力

## 8章 GIFを含め「スマートシティアセットと他システム」

## 起点



第3版	更新案作成者 日本電気株式会社
	執筆協力者 独立行政法人 情報処理推進機構 (4章、7章、8章、9章を中心に全般に協力) 一般社団法人コード・フォー・ジャパン (5.1.4)
第4版	更新案作成者 内閣府科学技術イノベーション推進事務局
	執筆者及び執筆協力者 ・地理空間データ連携基盤 (SCRA 別冊「地理空間データ連携基盤」含む) 執筆：株式会社 Geolonia 執筆協力：国土交通省 政策統括官付 地理空間情報課 執筆協力：高松市役所 都市計画課 デジタル社会基盤整備室 執筆協力：焼津市役所 行政経営部 DX推進課 執筆協力：広島県 土木建築局 ・センサーネットワーク 執筆：IPA 独立行政法人情報処理推進機構 デジタル基盤センター ・都市OSと自己主権型アイデンティティ 執筆：デジタル庁 国民向けサービスグループ

## GIFは様々な分野での活用に広げていく段階

### <上期>

スマートシティを起点に関係省庁、法人・団体、企業、自治体とGIF活用に関する継続協議、連携先の発掘

### <ターゲット分野>

- スマートシティ
- 観光
- アクセシビリティ
- 防災 ※実運用
- 教育 ※実運用

### <下期予定>

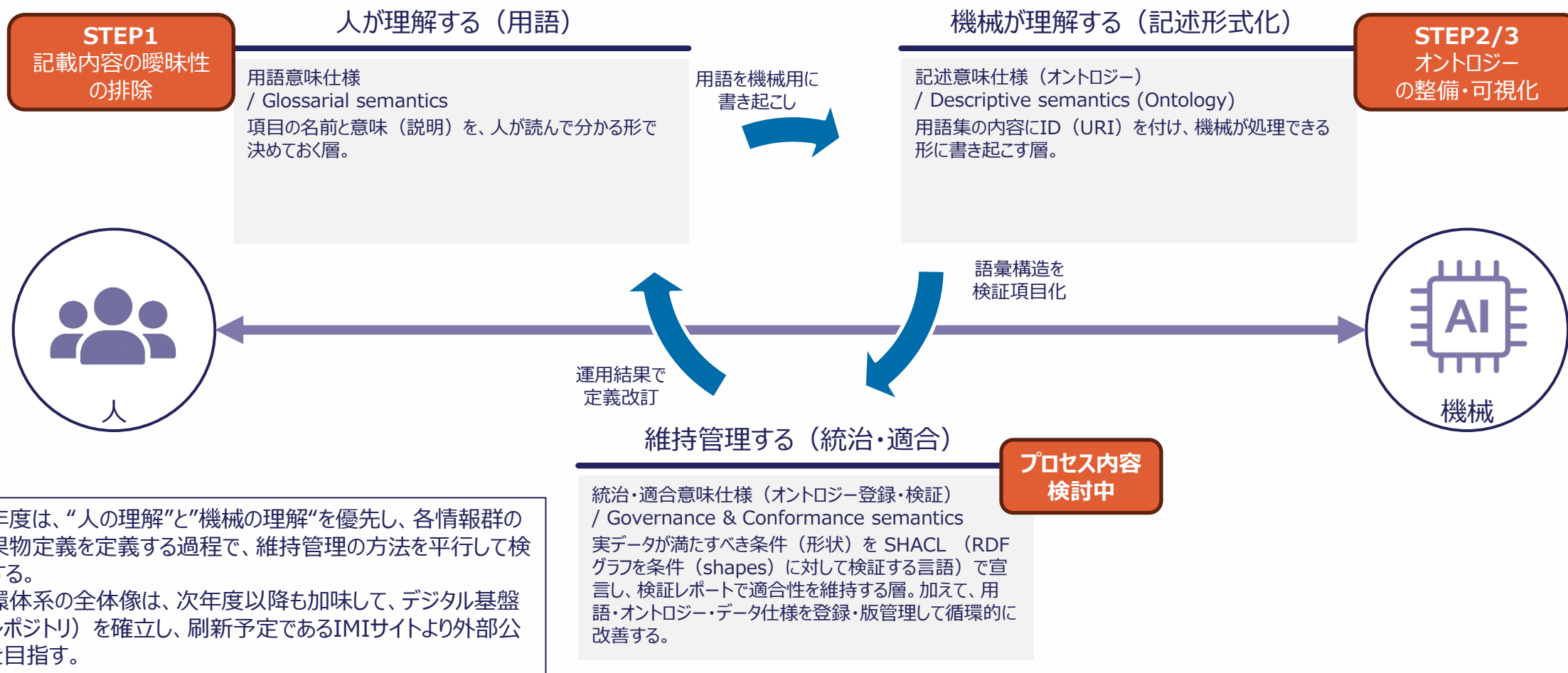
継続協議できている関係者とGIF活用の検討と共同事業化など実運用の準備



概要	背景	日本語によるAI利活用には、データ辞書/知識基盤の整備が不可欠である。 これは、機械判読可能で構造化された情報として整理しない場合、AIの意味理解や情報検索の精度が低下し、実用的な活用が困難になるためである。したがって、データ品質の向上、各国言語との相互運用性の確保に向けて、データ辞書/知識基盤の整備が急務である。
	内容	<ul style="list-style-type: none"><li>海外語彙モデル（SEMIC/NIEM/Shcema.orgなど）との整合性確保を行う。</li><li>関連語(同義語、同意語、類似語)の辞書：ipadicの言葉の揺らぎの整備を行う。</li></ul> ※項目説明においては、ISO/IEC11179-4（用語選択・文法・意味論に関する必須／推奨ルール）などを適用させるなどの整備を予定。
目標・狙う効果		外部参照に有効な情報提供を行う。 <ul style="list-style-type: none"><li>STEP 1：記載内容の曖昧性の排除 →データ辞書を利活用できる情報を公開する。</li><li>STEP 2：オントロジーの整備（海外語彙モデルへの整合やipadicの整備）</li><li>STEP3：オントロジーの可視化（グラフDB表記への対応。） →機械判読可能な情報にて、データ利活用を促進する。</li></ul>
上期取組		<ul style="list-style-type: none"><li>データ辞書の位置づけ定義</li><li>ipadic管理関係者への利用了承取得</li></ul>
今後の取組予定		<ul style="list-style-type: none"><li>コアデータモデル語彙（DMD）の項目説明の曖昧性の排除</li><li>ipadicの整備</li><li>オントロジーの可視化（Neo4JなどのグラフDBによる可視化）</li></ul>

# 参考：データ辞書 想定する体系定義

「組織内外で再利用するデータ項目について、用語（人可読）、オントロジー記述（機械可読）、適合検証/登録管理を統合的に扱う体系」で構成することにより、**人と機械の情報連携を支援**します。



# 普及展開状況

## 概要

### 背景

日本においては「データスペース」に関する情報発信は増えてつつあるものの、いまだ一般的に十分に知られている状態とはいえない。そこで動向や技術関連情報を国内外に向け発信し、認知を広める活動が必要である。ただし、IMD等の関連ランキングでは依然として日本は低い傾向があり、適切な相手に情報を届けるため適切なチャンネルやアプローチを見極める必要がある。

### 内容

情報発信媒体・機会を分析し、アプローチ先を明確にする。その際フレームワーク等を利用し、ペルソナとアプローチのチャンネルを整理・定義する。FY24はFY25以降継続的に観測するための基準を定める。

## 目標・狙う効果

- データスペースを含むデータ利活用を経営に生かすことが重要であるという雰囲気・潮流を生み出す。
- 情報発信媒体・機会を体系化することで定量的に観測できるようにする。

## 上期取組

- 認知を広げるための講演等による取り組み周知  
合計6件 オランダ大使館、EY監査法人等、Japan DX Week、機械システム振興協会、等
- フレームワーク選定およびフレームワークを用いたターゲット分析

## 今後の取組予定

- 関連カンファレンス、講演等で用いられる告知資材（プレゼン資料、リーフ等）を作成する
- 関係機関と協業し、データ・データスペース利活用を行う企業・行政が発表できる場を設ける
- 情報発信媒体・機会を一覧化し俯瞰的に見られるようにする
- 取得できる定量指標を洗い出す  
読本のダウンロード数、GIF特定資料ダウンロード数、イベント参加：人数/アクセス数/質問数、等



# 参考：ペルソナ×チャネルの定義

## Data Spaces

- 基本的に、要請があるものには積極的に対応する。
- 一方で普及展開のハブになる連携すべき専門機関※を対象として、説明活動を行う。KPIは別途設定予定。  
※デジタルエコシステム官民協議会（JDEP）等に参加する団体や関連機関等
- 各種メディアへの露出やイベント登壇等での発信を戦略的に行う。
  - メディア機会やイベントを一覧化し、各取組と親和性が高いものを重点的に対応する。
  - メディア、イベントにて発信されたものは、デジタル/SNSの媒体※を用いて発信する。  
※動画などは、YouTube、オウンドメディアなど。

### ■施策案（主としてイノベーターやアーリーアダプター向けを対象としたプロモーションを計画する）

施策 → (Promotion Mix) 採用者 区分 (TALC) ↓	広報・報道連携 (Public Relations)	普及促進策 (Sales Promotion)	公式通知・DB連 絡(Direct & DB)	個別説明・訪問 研修(Personal Selling)	デジタル/SNS	研修・実証イベ ント(Events & Experiences)
① イノベーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門誌・Tech メディア取材</li> <li>専門機関のブログ寄稿</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>専門機関へ説明会</li> </ul>		
② アーリーアダプター	<ul style="list-style-type: none"> <li>主管省庁・協議会・独法との共同リリース</li> <li>定例会見での話題差し込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドライン遵守で 評価加点</li> <li>標準化関連調達仕様の作成支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員向け YouTube 解説</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>YouTube 解説ライブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進事例紹介</li> </ul>

## Government Interoperability Framework : データモデル

- GIFについてはまずはデジタル庁内部での普及を進める。(GIF独自)
- 一方で、対外的な周知を必要とするため、公的機関に関するイベントを中心に、データ活用・標準化をテーマとした講演や取材活動には積極的に対応する。KPIは別途設定予定。
- その他各種メディアや一般的なイベント登壇での発信はほかのData Spaces関連活動と同様。

### ■施策案（特にデジタル庁内普及を優先する）

施策 → (Promotion Mix) 採用者 区分 (TALC) ↓	広報・報道連携 (Public Relations)	普及促進策 (Sales Promotion)	公式通知・DB連 絡(Direct & DB)	個別説明・訪問 研修(Personal Selling)	デジタル/SNS	研修・実証イベ ント(Events & Experiences)
② アーリーアダプター	<ul style="list-style-type: none"> <li>主管省庁・協議会・独法との共同リリース</li> <li>定例での話題差し込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドライン遵守で 評価加点</li> <li>標準化関連調達仕様の作成支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員向け YouTube 解説</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>YouTube 解説ライブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進事例紹介</li> </ul>
③ アーリーマジョリティ		<ul style="list-style-type: none"> <li>「早期移行支援員派遣」制度</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>技術相談会</li> </ul>

IPA